

大和証券グループ Presents

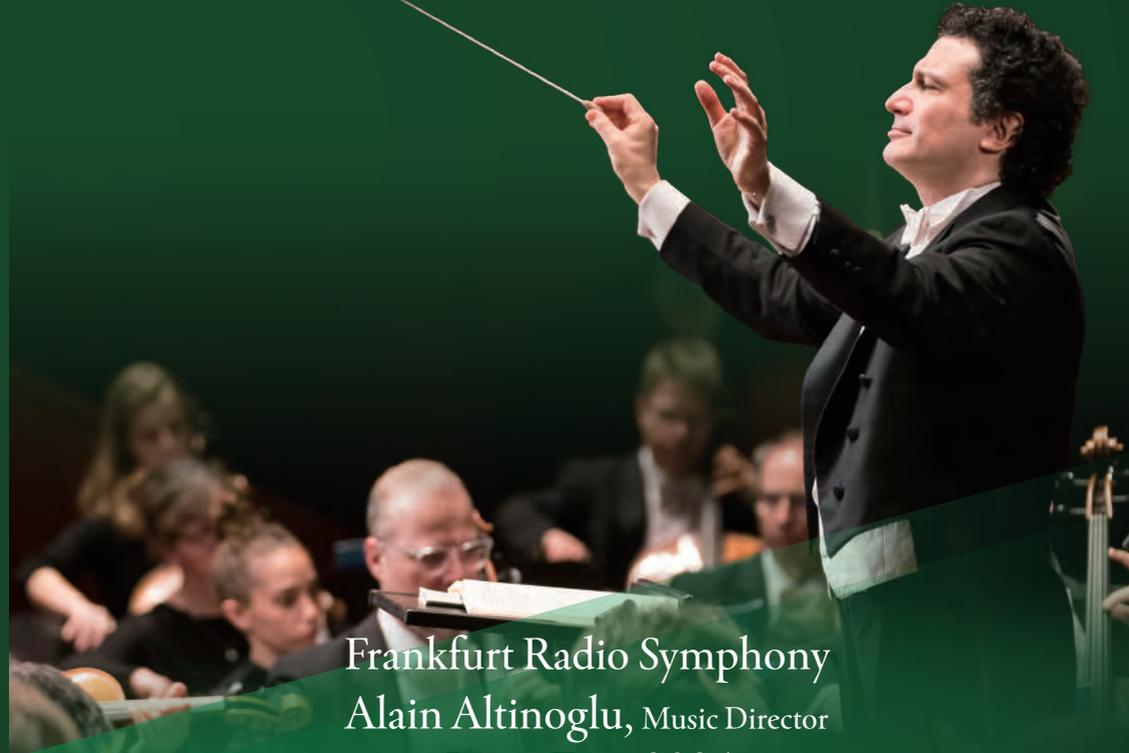
フランクフルト 放送交響楽団

hr-Sinfonieorchester

大和証券グループ Presents

フランクフルト 放送交響楽団

hr-Sinfonieorchester



Frankfurt Radio Symphony
Alain Altinoglu, Music Director
Japan Tour 2024

音楽監督:アラン・アルティノグル
2024年日本公演

特別協賛 **大和証券グループ**

大和証券グループ Presents

フランクフルト 放送交響楽団

hr - Sinfonieorchester

TOKYO

主催：ジャパン・アーツ／ぴあ

10.15 **TUE** 19:00開演
(18:20開場)

サントリーホール
Suntory Hall

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番「皇帝」
変ホ長調 Op.73 (ピアノ：ブルース・リウ)
Beethoven: Piano Concerto No.5 “Emperor” in E-flat major, Op.73
(Bruce Liu, Piano)

マーラー：交響曲 第5番 嬰ハ短調
Mahler: Symphony No.5 in C-sharp minor

OSAKA

主催：ザ・シンフォニーホール

10.16 **WED** 19:00開演
(18:00開場)

ザ・シンフォニーホール
The Symphony Hall

ワーグナー：
楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」より
第1幕への前奏曲
Wagner: Prelude to Act 1 of “Die Meistersinger von Nürnberg”

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番「皇帝」
変ホ長調 Op.73 (ピアノ：ブルース・リウ)
Beethoven: Piano Concerto No.5 “Emperor” in E-flat major, Op.73
(Bruce Liu, Piano)

ムソルグスキー(ラヴェル編曲)：組曲「展覧会の絵」
Mussorgsky/arr.Ravel: Suite “Pictures at an Exhibition”

AICHI

主催：中京テレビ放送

10.18 **FRI** 18:45開演
(18:00開場)

愛知県芸術劇場
コンサートホール
Aichi Prefectural Art Theater,
Concert Hall

ワーグナー：
楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」より
第1幕への前奏曲
Wagner: Prelude to Act 1 of “Die Meistersinger von Nürnberg”

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番「皇帝」
変ホ長調 Op.73 (ピアノ：ブルース・リウ)
Beethoven: Piano Concerto No.5 “Emperor” in E-flat major, Op.73
(Bruce Liu, Piano)

ムソルグスキー(ラヴェル編曲)：組曲「展覧会の絵」
Mussorgsky/arr.Ravel: Suite “Pictures at an Exhibition”

SAITAMA

主催：公益財団法人所沢市文化振興事業団

10.19 **SAT** 14:00開演
(13:15開場)

所沢市民文化センター
ミュージックアークホール
Tokorozawa Civic Cultural
Centre MUSE

ワーグナー：
楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」より
第1幕への前奏曲
Wagner: Prelude to Act 1 of “Die Meistersinger von Nürnberg”

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番「皇帝」
変ホ長調 Op.73 (ピアノ：ブルース・リウ)
Beethoven: Piano Concerto No.5 “Emperor” in E-flat major, Op.73
(Bruce Liu, Piano)

ムソルグスキー(ラヴェル編曲)：組曲「展覧会の絵」
Mussorgsky/arr.Ravel: Suite “Pictures at an Exhibition”

KANAGAWA

主催：ジャパン・アーツ／ぴあ
協力：横浜みなとみらいホール

10.20 **SUN** 13:30開演
(12:50開場)

横浜みなとみらいホール
Yokohama Minato Mirai Hall

ブラームス：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op.77
(ヴァイオリン：庄司紗矢香)
Brahms: Violin Concerto in D major, Op.77 (Sayaka Shoji, Violin)

マーラー：交響曲 第5番 嬰ハ短調
Mahler: Symphony No.5 in C-sharp minor

TOKYO

主催：ジャパン・アーツ／ぴあ

10.21 **MON** 19:00開演
(18:20開場)

サントリーホール
Suntory Hall

ブラームス：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op.77
(ヴァイオリン：庄司紗矢香)
Brahms: Violin Concerto in D major, Op.77 (Sayaka Shoji, Violin)

ムソルグスキー(ラヴェル編曲)：組曲「展覧会の絵」
Mussorgsky/arr.Ravel: Suite “Pictures at an Exhibition”

ごあいさつ

本日は「大和証券グループ Presents フランクフルト放送交響楽団」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

フランクフルト放送交響楽団は、伝統と革新を融合させた演奏が魅力の名門オーケストラです。本公演でタクトを振るアラン・アルティノグル氏は、オーケストラとオペラの両方で卓越した技術をもつ指揮者で、数々の一流オーケストラとの共演はもちろんのこと、メトロポリタン歌劇場やウィーン国立歌劇場で高く評価されています。クラシックの名作から現代音楽まで幅広いレパートリーを持ち、聴衆を魅了し続けています。2021年にフランクフルト放送交響楽団の音楽監督に就任し、初めての来日公演となりますので、ぜひご期待ください。

ソリストに迎えるのは、ブルース・リウ氏と庄司紗矢香氏です。ブルース・リウ氏は2021年の「ショパン国際ピアノ・コンクール」で優勝した、若くして世界的に高い評価を受ける才能豊かなピアニストです。庄司紗矢香氏は1999年に「パガニーニ国際ヴァイオリン・コンクール」で史上最年少優勝を果たし、高い技術と多彩な表現力が魅力の世界的ヴァイオリニストです。一期一会の感動をぜひ会場でお楽しみください。

これまで私たち大和証券グループは、継続的に文化芸術活動を支援してまいりました。今後も文化芸術への支援を通じて、そして金融・資本市場を通じた様々な事業活動により、人々の豊かな未来の創造に貢献いたします。

本日のコンサートが、皆様にとって心に残るひとときとなりますようお願いしております。

最後になりましたが、本公演に多大なるご尽力をいただきました関係者の皆様、そして本日来場いただきました皆様に心より厚く御礼申し上げます。

株式会社大和証券グループ本社
代表執行役社長 CEO

萩野明彦



©Chr Ben Knabe

指揮・音楽監督
アラン・アルティノグル
Alain Altinoglu
Conductor / Music Director

アラン・アルティノグルは2021年にフランクフルト放送交響楽団の音楽監督に就任。ロマン派及び印象派のレパートリーのみならず、近・現代音楽の解釈でも世界的な成功を収めている。

ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、コンセルトヘボウ管、ロンドン響、シカゴ響、クリーヴランド管、ボストン響、フィラデルフィア管、ミュンヘン・フィル、ロシア・ナショナル管、フィルハーモニア管、ストックホルム・フィル、デンマーク国立響、シュターツカペレ・ドレスデン、ベルリン・ドイツ響、トーンハレ管のほか、パリの主要なオーケストラなどの著名な楽団で定期的に指揮している。

オペラ指揮者としても国際的に活躍し、2016年よりブリュッセルのモネ劇場の音楽監督を務める。メトロポリタン歌劇場をはじめ、コヴェント・ガーデン・ロイヤル・

オペラハウス、ウィーン国立歌劇場、ベルリン国立歌劇場、バイエルン国立歌劇場など、世界の多数の有名なオペラハウスで指揮するほか、バイロイト、ザルツブルク、エクサンプロヴァンスの音楽祭に定期的に客演している。2023年にはフランスのアルザス地域圏最大のクラシック音楽祭であるコルマール国際音楽祭の芸術監督に就任した。

ピアニストとしても、歌曲のレパートリーに強い関心を持ち、メゾ・ソプラノのノラ・グビッシュと定期的に共演している。ジャズや即興演奏にも挑戦するなど、数々のCDリリースがその多彩な芸術活動の成功を物語っている。

1975年パリ生まれ、アルメニアのルーツを持つフランス人。パリ国立高等音楽院で学び、2014年以降、教授として同校の指揮クラスを率いている。



フランクフルト 放送交響楽団

Frankfurt Radio Symphony

©hr Ben Knabe



ドイツ初の放送交響楽団のひとつとして1929年に創立されたフランクフルト放送交響楽団は、現代最高峰のオーケストラに求められる課題を見事に達成している。管楽器セクションの質の高さ、弦楽器の豊かな音色とダイナミックな演奏に定評があるこのオーケストラは、音楽監督アラン・アルティノグルとともに、極上の音楽を演奏するだけでなく、興味深く変化に富んだレパートリーにも取り組んでおり、ヨーロッパのオーケストラの中でも世界的に傑出した地位を確立している。

革新的なコンサートの形式、国際的にも成功を取っているデジタル配信の提供やCD制作、ブルックナーの交響曲原典版の画期的な世界初録音集や、初のマーラー交響曲全集のデジタル版も高い注目を集めている。

長期にわたって音楽監督を務め、現・名誉指揮者のエリアフ・インバルから始まったこの音楽的伝統は、ドミトリー・キタエンコ、ヒュー・ウルフ、そして現・桂冠指揮者のパーヴォ・ヤルヴィから、過去7年にわたり音楽監督を務めて成功を取ったアンドレス・オロスコ=エストラーダを通して脈々と受け継がれている。

初代音楽監督ハンス・ロスバウトのもと、楽団創立当初からクラシック音楽と現代音楽の双方に力を注いできた。戦後の復興期にはクルト・シュレーダー、ヴィンフリート・ツィリヒ、オットー・マツェラートの指揮のもとでオーケストラは成長。1960年代から80年代にかけてはディーン・デイクソン、エリアフ・インバルの指揮のもと、世界各地での演奏や様々な賞を受賞した録音を通じて世界的地位を確立した。

Frankfurt Radio Symphony Alain Altinoglu, Music Director



1st Violin

Ulrich Edelmann, *First Concertmaster*
Alejandro Rutkauskas, *First Concertmaster*
Florin Iliescu, *Concertmaster*
Artur Podlesny, *Second Concertmaster*
Takeshi Kanazawa, *Vorspieler*
Ladina Casutt
Sorin Ionescu
Sha Katsouris
Barbara Kink
Thomas Mehlin
Hovhannes Mokatsian
Charys Schuler
Mariane Vignand
Laurent Weibel
Karolina Weltrowska
Wandi Xu
Peter Zelenka

2nd Violin

Maximilian Junghanns, *Solo*
Stefano Succi, *Solo*
Akemi Mercer-Niewöhner, *Vorspielerin*
Sergey Khvorostukhin, *Vorspieler*
Sonja Metzendorf
Ildiko Bors-Masson
Carolin Grün
Rachelle Hunt
Ayako Kasai
Grace Kyung Eun Lee
May Pitchayapa Lueangtawikit
Ulrike Mäding-Lemmerich
Shoko Magara di Nonno
Stefanie Pfaffensteller
Klaus Schwamm

Viola

Liisa Randalu, *Solo*
Benjamin Rivinius, *Solo*
Dirk Niewöhner, *Vorspieler*
Yi-Te Yang, *Vorspielerin*
Christoph Fassbender
Franziska Hügel
Kerstin Hüllemann
Henriette Mittag
Mircea Mocanita
Dashiel Nesbitt
Gabriel Tamayo
Wolfgang Tluck
Steffen Weise

Cello

Anton Spronk, *Solo*
Peter-Philipp Staemmler, *Solo*
Annette Müller, *Vorspielerin*
Valentin Scharff, *Vorspieler*
Julika Hasler
Ulrich Horn
Jan Ickert
Arnold Ilg
Larissa Nagel
Barbara Petit
Maja Schwamm

Double Bass

Boguslaw Furtok, *Solo*
Karsten Heins, *Solo*
Simon Backhaus, *Vorspieler*
Ioan Cristian Braica, *Vorspieler*
Albert Chudzik
Tamir Chuzhoy
Ulrich Franck
Stefan Otto
Dmytro Rudyk

Flute

Clara Andrada de la Calle, *Solo*
Sebastian Wittiber, *Solo*
Suyeon Lee, *Associate Solo*
Bettina Hommen
Leonid Grudin, *Piccolo Flute*

Oboe

Nicolas Cock-Vassillou, *Solo*
José Luis García Vegara, *Solo*
Doga Sacilik, *Associate Solo*
Michael Höfele, *Cor Anglaise*

Clarinet

Tomaz Mocilnik, *Solo*
Jochen Tschabrun, *Solo*
Lisa Wegmann
Ulrich Büsing, *Bass Clarinet*

Bassoon

Theo Plath, *Solo*
Karoline Zurl, *Solo*
Daniel Mohrmann, *Associate Solo*
Bernhard Straub, *Double Bassoon*

Horn

Marc Gruber, *Solo*
Kristian Katzenberger, *Solo*
Maciej Baranowski, *Associate Solo*
Michael Armbruster
Charles Petit
Thomas Sonnen
Gerda Sperlich

Trumpet

Sebastian Berner, *Solo*
Jón Vielhaber, *Solo*
Norbert Haas
Heiko Herrmann
Johanna Spegg

Trombone

Norwin Hahn, *Solo*
Oliver Siefert, *Solo*
Lothar Schmitt
Angus Butt, *Bass Trombone*

Solo Tuba

Ole Heiland

Solo Timpani

Lars Rapp

Harp

Anne-Sophie Bertrand, *Solo*
Bettina Linck

Celesta

Maria Ollikainen

Percussion

Konrad Graf, *Solo*
Burkhard Roggenbuck, *Associate Solo*
Sacha Perusset, *Associate Solo*
Paul Buchberger
Marc Strobel

Saxophone

Taewook Ahn



PIANO
ブルース・リウ
Bruce Liu

©Yanzhang

2021年第18回ショパン国際ピアノコンクール優勝。「息をのむような美しさ」(BBCミュージック・マガジン誌)の演奏で、この世代で最もエキサイティングな才能を持つピアニストとの評判を確立した。

これまでにロサンゼルス・フィル、サンフランシスコ響、フィラデルフィア管、NHK響等の主要オーケストラと共演し、2024/25シーズンは、サー・アントニオ・パッパーノ指揮ロンドン響、マリー・ジャコ指揮ウィーン響、ラハフ・シャニ指揮ロッテルダム・フィル、タングルウッド音楽祭にてポストン響、デンマーク国立響、ケルン放送響、シンシナティ響などと共演。カーネギーホール、シャンゼリゼ劇場、アムステルダム・コンサートヘボウでのリサイタル、ウィーン楽友協会、ミュンヘン・プリンツレーゲンテン劇場へのデビューが予定されている。

ドイツ・グラモフォンの専属レコーディング・アーティスト。ショパン・コンクールのライヴ録音を収録したファースト・アルバムは、グラモフォン誌の「2021年のベスト・クラシック・アルバム賞」を受賞、国際的に高い評価を得た。最新作はラモー、ラヴェル、アルカンなど、2世紀にわたるフランス音楽を収録した「Waves ~フランス作品集」。

リチャード・レイモンドとダン・タイ・ソンに師事。中国人の両親のもとにパリで生まれ、モンリオールで育った。驚異的な芸術性は、ヨーロッパの洗練、北米のダイナミズム、そして中国文化の長い伝統といった多文化の遺産によって形作られてきた。

唯一無二の芸術的多様性とレパートリーへの緻密なアプローチで、国際的に認められるヴァイオリニスト。その音楽的言語に対する非凡な洞察力は、これまで拠点を持ってきたヨーロッパと日本、二つの背景の混合に由来する。

東京に生まれ、3歳でイタリアのシエナに移住。キジアーナ音楽院とケルン音楽大学で学び、14歳でルツェルン祝祭管弦楽団との共演でヨーロッパ・デビュー、及びウィーン楽友協会に出演。

1999年バガニーニ国際コンクールにて史上最年少で優勝。以来、ズービン・メータ、ロリン・マゼール、セミヨン・ビシュコフ、マリス・ヤンソンス、ユーリ・テミルカーノフなど多数の一流指揮者と共演。オーケストラではフィルハーモニア管、ロンドン響、ベルリ

ン・フィル、ニューヨーク・フィル、チェコ・フィル、マリンスキー管など多数と共演している。最近では、ロウヴァリ指揮フィルハーモニア管とのイタリア・ツアーや、バツハとバルトークを演奏したフィルハーモニー・ド・パリでの舞踊家・振付家の勅使河原三郎とのコラボレーションなども記憶に新しい。

これまでドイツ・グラモフォンから11枚のアルバムをリリース。2022年秋にはジャンルカ・カシオーリとのモーツァルト：ヴァイオリン・ソナタを含む新しいアルバムをリリースした。

また安藤忠雄、杉本博司、勅使河原三郎など、他分野の著名な芸術家とも意欲的なプロジェクトを行っている。

使用楽器は上野製菓株式会社より貸与されているストラディヴァリウス「レカミエ」1729年製。

VIOLIN
庄司紗矢香
Sayaka Shoji

©Laura Stevens



ワーグナー：

楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」より 第1幕への前奏曲

Wagner: Prelude to Act 1 of “Die Meistersinger von Nürnberg”

16世紀、宗教改革時代のドイツを背景に、歌をたしなむ手工業者たちによる「歌合戦」を軸に描いたこの作品は、初期のオペラ「恋愛禁制」を除けば、ドイツ後期ロマン派の作曲家ワーグナー(1813-83)が手掛けた唯一の喜劇作品だ。手工業者の親方ハンス・ザックスのもとに若い騎士ヴァルターが現れ、過去の因習にとらわれない歌によって歌合戦に優勝し、恋人エーファと結ばれるという物語

からは、ドイツ芸術の目覚めの瞬間に注目し、人間性の高揚を高らかに歌い上げたいと願う、ワーグナーの深いドイツ愛が感じられる。作品の中の重要なテーマを断片的に盛り込んだ、勇壮な第1幕への前奏曲は、数多いワーグナーの序曲や前奏曲の中でも、屈指の人気を誇る名曲だ。初演は1868年6月21日、ミュンヘンのバイエルン宮廷劇場において、ハンス・フォン・ビューローの指揮によって行われている。

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番「皇帝」変ホ長調 Op.73

Beethoven: Piano Concerto No.5 “Emperor” in E-flat major, Op.73

ベートーヴェン(1770-1827)は、その生涯に5曲のピアノ協奏曲を遺している。その最後を飾る5番目のピアノ協奏曲は、その規模の大きさや堂々とした作風から「皇帝」と呼ばれるようになったピアノ協奏曲史上屈指の傑作だ。作曲当時、オーストリアはフランスとの戦争に突入。ベートーヴェンの周囲は落ち着かない雰囲気満ちていたようだ。1809年5月、破竹の勢いでオーストリアに侵入したナポレオン率いるフランス軍がウィーンを占領。貴族たちが全員ウィーンから離れるなか、街に踏みとどまったベートーヴェンは、砲撃を避けながら地下室で作曲を続けたという。この曲に感じられる英雄的な印象は、当時のベートーヴェンの心境が反映されたものだと言えそうだ。公開初演は1811年11

月28日、ヨハン・シュナイダーの独奏によってライプツィヒ・ゲヴァントハウスで行われ、ウィーンでの初演は翌1812年2月12日、ベートーヴェンの弟子カール・ツェルニーの独奏によって行われている。

第1楽章：アレグロ 変ホ長調

オーケストラの主和音に続いてピアノが華麗なカデンツァを奏で、その後に雄大な第1主題が演奏される。

第2楽章：アダージョ・ウン・ポ・モッソ ロ長調 自由な変奏曲。ピアノが奏でる印象的な旋律は、ベートーヴェンが遺した中でも最も美しいメロディの1つ。

第3楽章：ロンドアレグロ 変ホ長調

2楽章から切れ目なく続き、壮大なフィナーレによって幕を閉じる。ロンド形式。

ブラームス：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op.77

Brahms: Violin Concerto in D major, Op.77

ドイツ・ロマン派を代表する作曲家ブラームス(1833-97)が遺したヴァイオリン協奏曲は1曲のみ。しかし、この作品は、ブラームスの最高傑作と称えられるだけでなく、ベートーヴェン&メンデルスゾーン作品とともに、「3大ヴァイオリン協奏曲」の1つに数えられる名作だ。作曲されたのは1878年。交響曲第1番&2番や、「大学祝典序曲」「悲劇的序曲」などの優れた作品を生み出したこの頃は、ブラームスの創作活動が最も充実していた時期にあたる。

1877年9月に、バーデン・バーデンで、サラサーテ(1844-1908)の演奏を聴いて感銘を受けたブラームスは、自らもヴァイオリン協奏曲を手掛けることを思い立つ。翌78年8月には、ほぼ構想が固まり、第1楽章の独奏パートを、盟友ヨアヒム(1831-1907)に送って批評を求めるなど、意見交換を行いながらついに完成。1879年1月1日に、ライプツィヒのゲヴァントハウスで、ヨアヒムの独奏ヴァイオリンと、ブラームス自身の指揮

によって行われた初演は大成功を収めている。しかし、ヨアヒムの意見を全面的に受け入れなかったことが原因で、その後2人の関係がぎくしゃくしたものになったというのだから人間関係は難しい。とはいえ、作品はヨアヒムに献呈され、ヨアヒムもこの曲を広めることに尽力したことが知られている。

ちなみに、ブラームスはカデンツァを作曲しなかったため、この協奏曲のために多くのヴァイオリニストたちが魅力的なカデンツァを書いている。初演者のヨアヒムはもちろん、クライスラー、アウアー、ブッシュ、ハイフェッツなど、錚々たる顔ぶれの名手たちが手掛けていることから、この作品の価値が理解できる。

第1楽章：アレグロ・ノン・トロppo

四分の三拍子 ソナタ形式

第2楽章：アダージョ へ長調

四分の二拍子 三部形式

第3楽章：アレグロ・ジョコーソ・ノン・トロppo

ヴィヴァーチェニ長調 四分の二拍子

ムソルグスキー/ラヴェル編曲：組曲「展覧会の絵」

Mussorgsky/arr.Ravel: Suite “Pictures at an Exhibition”

19世紀ロシア国民楽派を代表する作曲家、ムソルグスキー(1839-81)が手掛けたピアノ組曲「展覧会の絵」は、ムソルグスキーの代表作であるばかりではなく、19世紀ロシアから生まれた最も独創的なピアノ作品だ。その成り立ちは、ムソルグスキーの親しい友人で、急進的な建築家、ヴィクトル・ハルトマン(1834-73)の急死に伴

い、彼の遺作展を見たことがきっかけだとされている。ハルトマンが遺した絵や、ムソルグスキー自身の空想にちなんだ10曲の小曲(1.小人、2.古城、3.ティルリーの庭、4.牛車、5.卵の殻をつけた雛の踊り、6.サムエル・ゴールデンベルクとシュムレイ、7.リモージュの市場、8.カタコンベ、9.パーバ・ヤーガの小屋、10.キーウの大門)と、

曲目解説

前奏&間奏の役割を果たす「プロムナード」とで構成されたこの音楽からは、亡き友人の展覧会場を歩くムソルグスキーの、悲しみと情の深さが伝わってくるようだ。

ムソルグスキーの死から5年後の1886年に出版されたこの奇抜な作品は、当時、殆ど弾かれることが無かったという。ところが、強烈な表現力を秘めた作風が多くの作曲家たちの創作意欲を刺激。今回演奏されるラヴェル版を含めて、さまざまな管弦楽編曲版が誕生する。

マーラー：交響曲第5番 嬰ハ短調

Mahler: Symphony No.5 in C-sharp minor

ボヘミアのユダヤ人家庭に生まれ、19世紀末から20世紀初頭にかけて、指揮者・作曲家として活躍したグスタフ・マーラー(1860-1911)は、当時、ドイツやオーストリアの歌劇場において、オペラ指揮者として大きな名声をあげていた。しかし作曲したオペラは最初期の1曲のみで、交響曲と叙情的な歌曲に主体をおいた作曲家だった。その意味ではシューベルト同様、マーラーにおいては、交響曲と歌曲は、切り離すことができない関係にあり、美しい歌(メロディ)に基づいた作曲家といえそうだ。

そのマーラーが遺した「大地の歌」を含む11曲の交響曲(第10番は未完成)の中でも、最高の人気を誇る作品が第5番だ。作曲に着手したのは1901年の夏。翌02年夏に、ウエルター湖畔のマイエルニツヒで完成したこの作品は、愛する妻アルマとの出会いの前に着手され、結婚の翌年に完成するという、マーラーにとって、とても幸福で実り豊かな時期の作品に違いない。中でも、ハーブと弦楽器のみで奏でられる

ラヴェル(1875-1937)に編曲を委嘱したのは、ロシア生まれの指揮者、セルゲイ・クーセヴィツキー(1874-1951)だった。1922年10月19日に、パリ・オペラ座において、クーセヴィツキー自身の指揮によって行われた初演は大成功。以来、世界中のオーケストラがこぞって演奏する人気プログラムになったのだから素晴らしい。まさに、“管弦楽の魔術師”ラヴェルの凄腕と、それを見抜いたクーセヴィツキーの慧眼が垣間見える。それに伴い、オリジナルのピアノ組曲の人気も急上昇。今ではピアニストにとっての重要なレパートリーとなっている。

第4楽章「アダージェット」の美しさはまさに格別。2人と親交のあった指揮者メンゲルベルクによる「これはマーラーからアルマへの、音楽による愛の告白だ」という言葉にも納得する。

そしてこの曲を一躍有名にしたのが、1971年公開の、ルキノ・ヴィスコンティ監督による映画「ベニスに死す」だ。映画のテーマ曲として使われた第4楽章「アダージェット」は大きな話題を呼び、1970年代後半にやってくる“マーラー・ブーム”のさきがけとなったことが記憶される。「いつかきっと、私の時代が来る」という、マーラーの言葉が心に沁みる名曲だ。

第1楽章：「葬送行進曲」嬰ハ短調

二分の二拍子

第2楽章：イ短調 二分の二拍子

第3楽章：スケルツォ 二長調 四分の三拍子

第4楽章：アダージェット へ長調

四分の四拍子 三部形式

第5楽章：ロンド 二長調 二分の二拍子



Passion for the Best

その情熱が、可能性をひらく。

限界を超えて、ベストをひたむきに追い求める。
大和証券グループは、挑み続ける情熱を失わない、
すべての人を応援します。

大和証券グループ